

厚生労働省がん対策の推進に関する意見交換会資料その 1

〈あけぼの会〉の目的と実績

1978年10月発足 現在会員数 4500、支部 40 都道府県 顧問医 72 名

会の 2 大目的

- ①乳がん患者サポート（患者同士の助け合い）
- ②早期発見啓発運動(体験者の立場から一般女性に向けてメッセージを送る)

目的①のために

- **ニューズレターなど印刷物**を通じて会員に情報発信
- **講演会、相談会、懇親会**など本部、支部単位で開催
- **電話相談**は本部、支部で常時受ける
- **ABCSS (Akebono Breast Cancer Support Service) 病院訪問ボランティア**
(1994 年スタート、現在 8 県の 10 病院で実施)

入院中の患者を退院する前に訪問して、退院後の社会復帰に関する疑問や不安に答えるボランティアシステム。訪問するのはあけぼの会会員で、所定の研修を受けて適任と認められた人。病院側の理解、特にナースの協力がないと実現できないので、このサービスがなかなか全国的に広がらない。アメリカでは全米のほぼ全病院で受け入れていて、このサービスを受けないと退院してはならないと決めている病院もあるくらい重要視されている。

● **「私のカルテ」**

自分の正確な治療記録を持つ。これはセカンドオピニオンを得たいときや引越しなどで転院をするとき、また再発したときなどに役に立つ。「カルテ開示」が叫ばれているが、医師のカルテでは素人はわからないので、患者が自分で理解できる治療記録の必要性を感じて作成した。医師側からも好評を得ていて、医師自ら進んで記入してくれることもある。

● **「乳がんディクショナリー」**

医療専門用語を患者がわかる言葉で解説したもの。これも医師の説明でわからなかった専門用語を自分で知るための解説書でそのわかりやすさが医療側からも好評を得ていて、先般発刊された「乳がん診療ガイドラインの解説」(金原出版)に随所で引用されている。

● **患者の早期社会復帰を支援することが大事なので、そのための具体策の一つとして有意義な ABCSS(病院訪問ボランティア)の普及推進に理解と協力がほしい。**

● **「インフォームドコンセント」や「カルテ開示」が叫ばれて久しいが、それには患者が十分な知識を持っていなければならないので、あけぼの会として実地的に役立つ資料を作成、提供している。近い将来、このような情報が患者すべてに行き渡るように国か自治体が無料で小冊子などの配布をしてくれることが望ましい。**

● **担当医に聞けない不安や疑問に対して、全国的に患者会のボランティアが電話相談を受けているのが現状。社会が必要とする行為を長年、陽が当たらない場所で、善意で続けるのは大変な労苦なので、これに対しても認知と敬意を払ってほしい。**

目的②のために

●母の日キャンペーン

女性、特に子供を持つ母親は子育ての責任があるので、乳がんで死んで子供にかわいそうな思いをさせないで、の発想から生まれたのが「母の日キャンペーン」。今年で22回続いている、全国支部が主体になって46箇所で開催されている。

- ・近年は県や市の自治体からの理解協力を得ていて、検診車の無料提供も今年は6県であった。
- ・ポケットティッシュは5万個配布。ティッシュのほか、揃いのTシャツやブルゾン作成の経費は寄付金でまかなっている。
- ・配布するのは会員有志。

●「乳がん検診の日」設定

2006年からあけぼの会とエステローダー(化粧品会社)の共同提案で2006年10月1日から毎年10月1日を「乳がん検診の日」とすることが認定された。これはまだ行き渡っていない「マンモグラフィー検診の重要性」を強調するためにスタートさせた。

●「乳がん月間」協力医のリスト公表

10月乳がん月間中、乳がんを心配していて専門医を探している人に向けて、全国の専門医で協力を申し出ている全国の医師団のリストを作成して公表、月間中に専門医を訪ねるよう勧めている。協力医にはポスターや配布用ピンクリボンなどを提供している。

●東京タワーライトアップ

10月1日、東京タワーをピンクにライトアップして、乳がんについて喚起する目的でエステローダー社とあけぼの会が始めて今年は6回目を実施した。世界的有名建造物も同時にライトアップされる世界的な行事で、国内でもこの行事が定着して来ている。

●ABCEF (Akebono Breast Cancer Education Force)

教育部隊(2006年正式スタート、今までも要請があれば受けていた)

会社・保健所・学校・市町村役所などの集まりで早期発見・早期治療の大切さ・自己検診の方法などを伝える。

●このように、私たちは体験者の立場から、一般女性が抵抗なく検診に行けるように、やさしく説得する作戦を考えて実施している。ただ「検診に行くように」というより、なぜ行かなければならないか、どこへ行けばよいか、具体的に示唆することが重要と考える。

●参考資料：①「あけぼの会のご案内」、②ニュースレターNo.111、③「ABCSSパンフレット」、④母の日キャンペーン用ポケットティッシュ、⑤小冊子「私のカルテ」、⑥「乳がんディクショナリー」



数字・英語

- 1 CTP →腫瘍マーカー
- 5-FU (5-Fluorouracil) フルオロウラシル。→化学療法
- 5'DFUR (Doxifluridine) 商品名フルツロン。5-FUのプロドラッグ(体内で5-FUに変わります。→化学療法)
- AC アドリアマイシン (Adriamycin) とシクロホスファミド (Cyclophosphamide) の2剤併用療法。→化学療法
- Anastrozole →アナストロゾール
- AT アドリアマイシンとタキソテール (Taxane) の併用療法。→化学療法
- BRCA 1, BRCA 2, BRCA 3 (Breast Cancer 1, 2, 3) 遺伝性乳がん・卵巣がん抑制遺伝子。家族性乳がんの60%以上を占め、異常があると半分の確率で乳がんや卵巣がんを発症しているが、わが国ではまだ十分に検査されていない。遺伝子検査(遺伝子診断)により、乳がんや卵巣がんの発症リスクを事前に把握し、適切な予防や治療を行うことが可能。
- BRM (Biological Response Modifier) 免疫系をはじめとする身体全体の機能を活性化し、がん細胞の増殖を抑制しようとする患者自身の免疫細胞を活性化させる。
- CA 15-3 腫瘍マーカー
- CAF シクロホスファミド
- 化学療法
- CEA 腫瘍マーカー
- CEF シクロホスファミドとエタニドリンの併用療法。→化学療法
- CMF シクロホスファミド、メトキシプラドリン、5-FUの3剤併用療法。

目次

- 数字・英語
- あ
- 乳がん初期治療で使用される抗がん剤の種類
- 転移性乳がん治療法
- ホルモン剤の種類
- ホルモン療法の選択
- ヘリカルCT
- HER2 (ハーツ)
- 乳房のしくみと乳がん
- 腋窩とリンパ節
- 自転公転触診法
- 乳がんに対する各種検査
- ザンクトガレン
- 「在宅自己注射」
- MEMO
- 後記(第1・2版)
- 後記(第3版)
- 〈あけぼの会〉

記入例

外来の記録

(200X年)

治療	2月0日(月) X年	5月0日(木) X年	6月0日(木) X年
放射線療法*	治療法: 放射線療法	治療法: 放射線療法	治療法: 放射線療法
化学療法*	薬剤名: 手術後1回目の治療	治療法: 分子標的療法 薬剤名: 〇〇	治療法: 分子標的療法 薬剤名: 〇〇
ホルモン療法*	制吐剤	点滴2回目	点滴3回目
支持療法	白血球減少症治療薬	スタート	
その他	抗生物質		
	その他		
診察	視診 触診 特に異常		
マンモグラフィー*	実施(結果)		
乳房超音波検査*	検査名:		
胸部エックス線検査*			
CT*(部位も記入)			
骨シンチ*			
血液検査			
腫瘍科検診 など			
治療中新期間・休業期間			
〈自由記述欄〉 (日常生活の予定や気づいたことなどを自由に記入しましょう)			

私のカルテ

—改訂版—



目次

- 私のプロフィール
- 治療前の検査の記録
- ステージング(がんの進行)
- 私が受ける治療
- 手術の前に知っておきたいこと
- 手術の内容
- 放射線療法*
- ホルモン療法*
- 化学療法*
- 手術後に確認して欲しいこと
- 外来の記録
- 再発*・転移*後の治療
- 治療の前後の検査
- 治療についてよくある質問と回答
- 用語解説
- *の付いている項目は「実施」に、結果を聞いてください。

